

伊藤外科ニュース



107号

2013.06 発行

梅雨入り宣言後も、初夏を思わせる様な天候が続き水不足を心配してしまいます。昨日は関西地方では夏日であったようですね。

名称変更のお知らせ

ところで、七月一日をもって伊藤外科の名称を伊藤外科内科医院に変更致します。

伊藤外科は昭和34年に先代の院長伊藤彬男が消化器外科と救急医療を行うために開設後50数年が経ちました。当時の伊藤外科は方南通りに面し、淀橋幼稚園児の私は2階の窓から救急車の出入りを夜な夜な見ていた事を思い出します。

地元の皆さんと歴代のスタッフに支えられながら、平成10年に私が母校の慈恵医大消化器外科を辞して伊藤外科に帰るまで、父は手術を続けていました。しかし、外科医療の安全性を維持するために必要な最新機材を適時設置する経済的負担は重く、また私自身の外科医としての達成感もあり手術室を閉鎖し無床医院となりました。

その後、訪問看護ステーションを設立するために医療法人化し、法人名を父「彬男」と私の「顕彦」の一字ずつ取り顕彬会(けんひんかい)とし、今日に至っております。



現在では伊藤外科に来院される患者さんの半数は内科的慢性疾患の方ですので、当院の現状に即した医院名の変更の必要性を感じ、伊藤外科内科医院とすることとしました。

淀橋、十二社などの地域の名称が無くなり、伊藤外科のお馴染みさんである地域で暮らす住民の方は再開発で転居されたり、特にご高齢の方は亡くなったりし少なくなりました。また、初診の患者さんは地元の方以外も増えていきます。時代や世の中の変化が激しくとも、今後も正確で安全な医療を行って行きたいと思しますので皆様よろしくお願ひいたします。

さて、6月より当院では新宿区と中野区の住民健診が始まりました。渋谷区民の方の健診は今年も新宿区の医療機関では行えずご迷惑をおかけします。

ところで、今年から新宿区では16歳から39歳までの区民のうち勤務先で健診を行っていない方を対象に無料健診を各医療機関で行っています。以前は、私はこの年代層は健診で見つかるような慢性疾患と無縁の方々と思っていました。しかし、現状は食生活が荒れ、特に夕食の時間が深夜になるような就業環境の方が多く体調を壊したり、いわゆるメタボの方も増えております。一度健康診断を受けてみる機会を作ってみてはいかがでしょうか。

冒頭に書きましたように、今年の梅雨時期の前半は素晴らしい天候で、新緑の季節を満喫しました。これからは本格的なジメジメした梅雨の季節となる事と思ひます。感染症の時期にもなりますので健康に留意しお過ごしてください。

院長

伊藤外科 HP <http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーはHPにて公開中です)

三弓先生の本棚 33



ブツダ

著者：手塚治虫

仏教関連の一般書は昔から数多い。僧侶が書いたもの、宗教学や哲学者が書いたもの多々あるが、三弓の本棚にも鈴木大拙先生的全集をはじめ、新旧数冊もの仏教関連図書が並んでいる。

近年、書店で多く目にするのは、自己啓発的といえいいのだろうか、仏教の教えを実生活に役立てることに主眼を置いた本である。数年前から若い世代を中心に多くの読者をつかんだ著者は浄土真宗の寺の子として生まれ、東大在籍中から原始仏教を独自に学んだという僧侶・小池竜之介氏である。先日、新聞の一面広告を飾っていたのは、曹洞宗の僧侶で庭園デザイナーという枡野敏明氏だ。数社の出版社が共同で広告をうっていたので、出版社にとって今、イチオチのお坊さんの書き手ということかもしれない。

小池氏の本は2冊ほど読んだことがあるが、枡野氏の著書は読んだことがない。ただ、広告を見る限りにおいて、本としての売り方の方向性は両氏とも同様のようで（内容の方向性は違うと思うが）、逆にいえば、今、世の中がなにを望んでいるのかが垣間見える。両氏とも実践哲学としての「禅」を軸におかれているようだが、本のキーワードになっているのは「怒らない」「イライラしない」「心の大そうじ」「シンプル生活」等々。小池氏の本を読んでいると、「世の中の人たちはどんだけイライラしているんだ!?!」と思うほどであるが、そうした心煩わされるものから開放されるための実践的仏教思想が書かれている。

仏教には興味はあるが、個人的にはこの「実践的」という、若干ハウツー的なものには興味が薄い。それより釈迦をはじめ、道元や空海、最澄、日蓮といった方々の人物像を描いたものを読むことのほうが多い。このところ、寝しなに読んでいるのは、手塚治虫氏が44歳のとき（1972年）からおよそ10年かけて連載していた『ブツダ』である。あっ、漫画です。すみません、三弓の本棚からではなく、図書館から借りました。

紀元前、ヒマラヤ南麓のカピラヴァストウの王子として生まれたゴータマ・シッターダがブツダ（目覚めた人）となって没するまでの生涯を描いたこの漫画は、単行本にも文庫本にもなっているが10～14巻のシリーズものである。最初にこの漫画を読んだのは、20年近く前だったのだろうか。奈良・檜原生まれで仏教系の高校を卒業した元同僚が、「オレは毎年1回、必ず『ブツダ』を読むことにしている。オレのバイブルだ」と言って貸してくれた。要所要所に手塚治虫先生らしいユーモラスな表現も交えながら、実に深い、哲学的な作品となっている。この漫画を深く己に刻み込むように読むことができれば、人生という長い道りを歩いていくための強力な杖になるに違いないだろうなあ……、と思いつつ、今回3回目の通読中である。

先週のNHK大河ドラマ『八重の桜』で記憶に残るセリフがあった。消息がわからない夫を心配してふさぎ込んでいる兄嫁を八重がなぎなた道場に連れ出す場面。八重はきっぱりとひと言、こう言った——「体を動かせば、心も動き出します」。日常会話の中にこういう本質をついた言葉がめったに聞かれなくなってきた。人事ではない。もっと腹の深いところで学び、考え、想い、丁寧に生活していかなければ……。 「人物」になる道は遠いなあ。反省。

（一弓）